

平成31年度
原子力施設等防災対策等委託費
(高度被ばく医療支援センター及び原子力災害
医療・総合支援センター業務の実施)
事業

成果報告書

令和2年3月
国立大学法人 弘前大学

本報告書は、原子力規制委員会原子力規制庁の平成31年度原子力施設等防災対策等委託費による委託事業として、国立大学法人弘前大学が実施した平成31年度「高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センター業務の実施」の成果を取りまとめたものです。

目 次

第1章	はじめに	1
第2章	体制の整備・維持（人材、施設、設備及び備品等）	2
2.1	事務局長の配置	2
2.2	医療体制等の整備	2
2.3	「専門家」及び「原子力災害医療派遣チーム」の配置等	4
2.4	「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整体制の整備	4
第3章	教育研修・訓練	5
3.1	自施設職員への研修の実施	5
3.2	「原子力災害医療派遣チーム」の構成員等への教育研修等の実施	6
3.3	高度専門的な教育研修の実施	9
3.4	自施設職員への定期訓練の実施	14
3.5	「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整訓練の実施	17
3.6	国及び地域の原子力災害防災訓練等への参加及び助言・指導	17
第4章	原子力災害医療関係ネットワークの構築	21
4.1	地域の原子力災害医療関係ネットワークの構築	21
4.2	全国の原子力災害医療関係ネットワークの構築	22
4.3	原子力災害医療専門家のネットワークの構築	22
4.4	地域ネットワーク構築支援	23
4.5	原子力災害医療派遣チームのネットワークの構築	25

(空 白)

1章 はじめに

弘前大学は、多様な原子力関連施設を擁する地域的な背景を踏まえ、東日本大震災前の平成20年4月から被ばく医療体制の整備及び被ばく医療に関わる教育・研究ならびに人材育成に取り組んできた。

平成22年3月に被ばく医療教育研究施設として、放射線生物学部門、放射線物理学部門、放射線化学部門及び被ばく医療学部門の4つの部門からなる被ばく医療総合研究所を設置した。加えて、平成22年4月には医学部附属病院に、被ばく傷病者専用の初療室を始めとし、体表面モニターやホールボディカウンター、甲状腺モニター等の計測機器や内部被ばくを評価する化学分析室を備えた高度救命救急センターを設置する等、被ばく医療のバックアップ体制の整備を進めてきた。

これらの取組は、平成23年3月11日に発生した東日本大震災に伴う東京電力福島第一原子力発電所事故対応において、避難所での支援活動や様々な学術調査、情報発信等、多くの貢献につながった。

また、平成22年度から平成26年度まで、文部科学省科学技術戦略推進費による「地域再生人材創出拠点の形成」事業において、国の原子力政策における危機管理対策の一環として、被ばく医療に関わる高度な専門的知識、能力や技術を有する人材を育成し、医療、教育・研究及び行政機関等において、被ばく医療に対応できる体制を構築するため、「被ばく医療プロフェッショナル育成計画」を実施した。プロジェクトの事後評価では、所期の計画を超えた取組が行われているとされ「S」評価を受けた。さらに、国立大学法人評価委員会より、第2期中期目標期間の業務の実績について、緊急被ばく医療を担う地域の求める特色ある人材の養成を目指した戦略的・意欲的な計画を定めて積極的に取り組んでいるとの評価を各事業年度において受けた。

その後、国の原子力災害対策指針が改正され、原子力災害時及び平常時における被ばく医療体制が大きく見直されることとなり、弘前大学は、これまでに培われた人的、組織的及び学術的資源をもとに、平成27年8月に原子力規制委員会から原子力災害医療に対応する施設として「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」の指定を受けるに至った。

本事業は、原子力規制委員会により「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」に指定された弘前大学が、「原子力災害時医療体制」の構築等に向け、センター運営に係る人材育成・施設維持、高度・専門的な教育研修等を実施するものである。

第2章 体制の整備・維持（人材、施設、設備及び備品等）

2.1 事務局長の取組

平成31年（令和元年）度、事務局長は原子力規制庁が5回開催した全事務局長会議に出席した。事務局長会議では、原子力災害医療体制整備状況についての報告、基礎及び専門研修の実施体制改良に向けた意見交換、原子力災害対策指針等の改正に関する意見交換、国の原子力総合防災訓練実施体制に関する情報共有、その他センター事業遂行に係る意見交換等を行った。また、支援センター事務局長意見交換会に参加し、支援センター間の連携強化に努めた。

担当地域の原子力災害拠点病院を含む関係機関等との連携体制増強に向けて原子力災害拠点病院及び自治体等を訪問し、原子力災害医療体制や支援センター事業に関する情報提供、「原子力災害医療派遣チーム」派遣調整に関する意見交換、専門研修実施に係る打合せ、懸念事項に対する支援等を行った。同様に、担当地域実施の原子力防災訓練の調整会議及び本訓練等への参加や各担当地域開催のネットワーク会議へオブザーバーとして出席し、助言等を行った。

令和元年7月青森県弘前市において、地域の原子力災害医療関係者間の人的ネットワーク構築と現状把握・意見交換のための会合、地域原子力災害医療連携推進協議会（弘前大学担当地区）を開催し、事務局長は運営統括を行った。

高度・専門的な教育研修の内容均一化を図るため、平成31年度包括的被ばく医療の体制構築に関する調査研究研修、第一回、第二回及び第五回原子力災害時医療中核人材研修へオブザーバー参加した。

他支援センター主催の地域原子力災害医療連携推進協議会にオブザーバーとして参加し、各支援センター担当地域の課題共有、情報交換等を行った。

2.2 医療体制等の整備

（1）緊急時通信機器等の維持管理

災害時用通信手段として整備した衛星携帯電話・衛星ブロードバンドシステム（IPSTAR）・衛星電話用Wi-Fiルーター（医療派遣チーム活動時用）・テレビ会議システム（量子科学技術研究開発機構と接続可能）の維持管理として、機器類の動作確認や保管場所及び設置場所の状況確認を行った。

また、統合原子力災害ネットワークシステムの維持管理として、原子力規制庁及び他支援センターとの定期導通テスト（TV会議、IP電話、FAX、電子クロノロの操作確認、PC-TV会議）に参加した。

(2) 原子力規制庁・支援センター間の情報共有体制の確認

原子力規制庁及び支援センター間で情報や課題を共有・協議する場である高度被ばく医療支援センター及び原子力災害医療・総合支援センター事務局長会議は、令和元年5月、7月、8月、9月、11月及び令和2年1月（計5回）に行われた。会議では今年度の運営体制・研修体制に関する意見交換、「原子力災害対策指針」及び「安定ヨウ素剤の配布・服用に当たって」の改正に係る意見交換、総合防災訓練実施に向けた情報共有が行われた。また定期報告として、各センター担当地区の原子力災害医療体制に関する整備状況報告を行った。

<平成31年（令和元年）度支援センター事務局長会議>

○第1回 支援センター事務局長会議

開催日：令和元年5月21日（火）

場 所：原子力規制庁

出席者：支援センター長、事務局長、教員（放射線科学）1名

○第2回 支援センター事務局長会議

開催日：令和元年7月17日（水）

場 所：原子力規制庁

出席者：事務局長、教員（放射線科学）1名

○第3回 支援センター事務局長会議

開催日：令和元年9月18日（水）

場 所：原子力規制庁

出席者：事務局長、教員（放射線科学）1名、事務職員1名

○第4回 支援センター事務局長会議

開催日：令和元年11月27日（水）

場 所：原子力規制庁

出席者：事務局長、教員（放射線科学）1名、事務職員1名

○第5回 支援センター事務局長会議

開催日：令和2年1月29日（水）

場 所：原子力規制庁

出席者：事務局長、教員（放射線科学）1名、事務職員1名

○第6回 支援センター事務局長会議

開催予定日：令和2年3月12日（木）

場 所：原子力規制庁

出席者：事務局長、教員（放射線科学）1名、事務職員2名
※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止

2.3 「専門家」及び「原子力災害医療派遣チーム」の配置等

「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」の施設要件として求められる「専門家」及び「原子力災害医療派遣チーム」構成メンバーについて今年度の人員状況を確認し、国、立地道府県等、原子力災害拠点病院等の医療機関からの要望に応じて派遣できる体制を整えた。

また、「専門家」及び「原子力災害医療派遣チーム」が移動に用いるドクターカーの運用管理、派遣時に携行する医療資機材や装備品の追加整備及び在庫管理等を行った。加えて、「高度被ばく医療支援センター」及び「原子力災害医療・総合支援センター」の施設要件として求められる被ばく医療体制を保つために必要な機器等の維持管理として自施設にて保有の個人線量計、放射線測定器及び解析機器等の保守点検・校正を行った。

点検・校正実施の個人線量計・放射線測定器・解析機器等一覧

品名	数量
個人線量計各種	121
サーベイメータ・放射線測定器等	34
汚染モニタ類	11
核種分析装置等	7

2.4 「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整体制の整備

有事の際「原子力災害医療派遣チーム」の円滑な派遣調整や活動支援を行うため担当地域自治体及び原子力災害拠点病院と意見交換等を行った（後述 第4章4.4参照）。

第3章 教育研修・訓練

3.1 自施設職員への研修の実施

放射線に関する基本的知識や原子力災害時の医療体制等を確認することを目的として「原子力災害時医療に関する基礎研修」を実施した。

受講対象：弘前大学医学部附属病院に勤務する医療職者、事務職員、外部委託職員、弘前大学大学院保健学研究科教職員、その他関連部局

○原子力災害時医療に関する基礎研修（平成31年（令和元年）度第1回）

実施日：令和元年7月30日（火）

場 所：医学部臨床大講義室

受講者：177名

○原子力災害時医療に関する基礎研修（平成31年（令和元年）度第2回）

実施日：令和2年2月6日（木）

場 所：医学部新講義棟

受講者：117名

平成31年（令和元年）度原子力災害時医療に関する基礎研修受講者内訳

職 名	医師・教員	看護師・助産師・保育士	その他 医療従事者	事務系役職員 (外部委託含)	各回合計
第1回	33	88	27	29	177
第2回	35	42	7	33	117
職名別合計	68	130	34	62	294



第1回



第2回

(参考) 原子力災害拠点病院自施設職員対象の基礎研修実施支援

担当地域の原子力災害拠点病院にて実施が求められている自施設職員への教育研修実施支援として、本学「原子力災害医療派遣チーム」構成員である医師、看護師、放射線管理員（放射線科学教員）を研修講師として派遣した。

◇令和元年度原子力災害拠点病院における自施設職員に対する基礎研修

実施日：令和2年2月10日（月）

場 所：北海道大学病院

受講者：31名

◇令和元年度原子力災害拠点病院における自施設職員に対する基礎研修

実施予定日：令和2年3月23日（月）

場 所：札幌医科大学附属病院

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止

3.2 「原子力災害医療派遣チーム」の構成員等への教育研修等の実施

「原子力災害医療派遣チーム」構成員等が最新の知見や手技手法等を得る目的で放射線や災害対応に関連する会議や学会、研修会等への参加、また基幹高度被ばく医療支援センター等が実施する高度専門的な教育研修を受講した。

<放射線及び災害対応に関連する会議や学会、研修会等への参加状況>

○平成31年度包括的被ばく医療の体制構築に関する調査研究研修

実施日：令和元年5月7日（火）～令和元年5月11日（土）

場 所：国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
放射線医学総合研究所 研修棟

受講者：医師2名、看護師1名、診療放射線技師1名、教員（放射線看護学）1名、教員（放射線科学）1名、事務局長、事務職員1名

○第7回日本放射線事故・災害医学会年次学術集会

実施日：令和元年9月21日（土）

場 所：東北大学 良陵会館

参加者：医師1名、看護師2名、診療放射線技師1名、教員（放射線看護学）2名、教員（放射線科学）3名、事務職員1名

○令和元年度原子力災害医療派遣チームに係る専門研修（青森県）

実施日：令和元年10月20日（日）

場 所：八戸市立市民病院

受講者：技術補佐員（診療放射線技師）2名

- 2019年甲状腺簡易測定研修
実施日：令和元年10月21日（月）
場 所：国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構
量子医学・医療部門放射線医学総合研究所 研修棟
受講者：診療放射線技師1名、教員（放射線科学）1名

- 令和元年度第四回原子力災害医療中核人材研修
実施日：令和元年11月20日（水）～令和元年11月22日（金）
場 所：弘前大学保健学研究科他
受講者：看護師2名、診療放射線技師1名

- 2019年度ホールボディカウンター計測研修
実施日：令和元年12月3日（火）～令和元年12月4日（水）
場 所：国立研究開発法人量子科学技術研究開発機構
量子医学・医療部門 放射線医学総合研究所 研修棟
受講者：診療放射線技師1名

- 第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会
実施日：令和元年12月4日（水）～令和元年12月7日（土）
場 所：東北大学 青葉山 Commons、災害科学国際研究所
参加者：教員（放射線科学）1名、技術補佐員（診療放射線技師）2名

- 原子力災害拠点病院のためのモデルBCPおよびリスクコミュニケーションに関するワークショップ研修
実施日：令和2年1月7日（火）
場 所：青森県庁 西棟8階大会議室
参加者（オブザーバー）：医師1名、教員（放射線科学）1名、事務局長、事務職員2名、技術補佐員（診療放射線技師）1名

- 第1回災害医療支援冬季対策～災害医療ロジスティクス研修（冬季版）
実施日：令和2年2月4日（火）～令和2年2月5日（水）
場 所：安比高原
受講者：事務職員1名

- 高度専門被ばく医療研修
実施日：令和2年2月12日（水）
場 所：八重洲三井ビルディング3階（31 Building YAESU）
会議室C

受講者：医師2名、教員（放射線看護学）1名、教員（放射線科学）1名

○第25回日本災害医学会学術大会

実施日：令和2年2月20日（木）～令和2年2月22日（土）

場 所：神戸国際会議場、神戸商工会議所、アリストンホテル神戸

参加者：医師1名、教員（放射線科学）1名、事務職員1名、技術補佐員（診療放射線技師）1名

○令和元年度ホールボディ・カウンタ性能維持等業務に係る集団研修

実施日：令和2年2月28日（金）

場 所：コラッセふくしま 5階研修室A

受講者：教員（放射線科学）1名

○令和元年度青森県立中央病院原子力災害医療研修会

実施予定日：令和2年3月4日（水）

場 所：ラ・プラス青い森 2階カメラア

参加者：事務局長、事務職員1名

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止

3.3 高度専門的な教育研修の実施

(1) 原子力災害拠点病院の中核人材等に対して行う高度専門的な教育研修

平成31年（令和元年）度は、全国5箇所の高度被ばく医療支援センターが実施する全5回の原子力災害時医療中核人材研修のうち、第4回目を担当した。

○平成31年（令和元年）度第四回原子力災害医療中核人材研修

実施日：令和元年11月20日（水）～令和元年11月22日（金）

場 所：弘前大学 保健学研究科 F棟 1階・2階・5階

医学部附属病院 高度救命救急センター 地下1階

対象者：原子力災害拠点病院もしくはその候補となる病院の医師、看護師、診療放射線技師等

受講者：27名（医師5名、看護師6名、診療放射線技師16名）



11月20日（水）第四回原子力災害医療中核人材研修（研修1日目）



11月20日（水）第四回原子力災害医療中核人材研修（研修1日目）
計測実習



11月21日（木）第四回原子力災害医療中核人材研修（研修2日目）
養生実習・除染実習・受入実習



11月22日（金）第四回原子力災害医療中核人材研修（研修3日目）
机上演習

(2) 原子力災害医療派遣チームの構成員を養成するための研修

担当地域である北海道、青森県、宮城県の原子力災害拠点病院に講師を派遣し、原子力災害医療派遣チーム専門研修を実施した。

①令和元年度 原子力災害医療派遣チームに係る専門研修（北海道）

実施日：令和元年7月21日（日）

場 所：札幌医科大学 教育研究棟I 4階 D401・D402講義室

時 間：8時55分～17時

受講者：14名（医師4名、看護師7名、診療放射線技師3名）



②令和元年度 原子力災害医療派遣チームに係る専門研修（青森県）

実施日：令和元年10月20日（日）

場 所：八戸市立市民病院 2階 講堂

時 間：9時～17時

受講者：9名（医師2名、看護師1名、診療放射線技師6名）



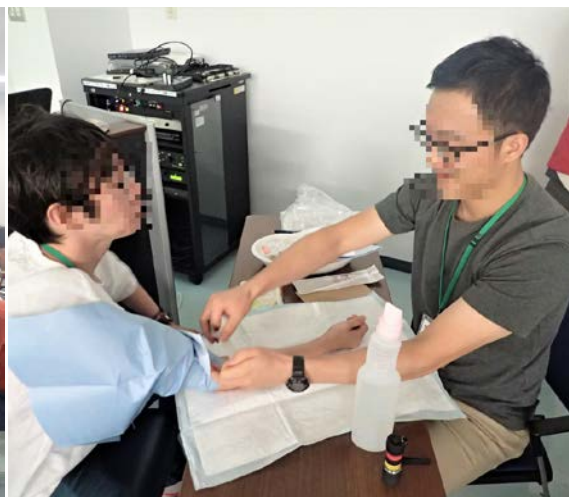
③令和元年度 原子力災害医療派遣チームに係る専門研修（宮城県）

実施日：令和元年9月22日（日）

場 所：東北大学 医学部6号館 1階

時 間：9時～17時

受講者：14名（医師4名、看護師5名、診療放射線技師3名、事務職員2名）



3.4 自施設職員への定期訓練の実施

担当地域の原子力防災訓練へ専門家及び医療派遣チームが参加することで自施設職員の実地訓練を兼ねた。

また、原子力災害時に傷病者受入先となる高度救命救急センター所属の看護師を対象としたタイベック着脱訓練は、7月～12月の期間に渡って実施した。

これらに加えて、国の訓練ではメール配信訓練、クロノロ記載の実施、担当地域の原子力防災訓練では通信訓練へ参加した。さらに原子力災害時等の緊急時における通信機器類の使用法習得を目的に、事務職員による衛星電話通信訓練及びテレビ会議システム通信訓練を実施した。

なお、原子力災害の定義には該当しないが、汚染傷病者受入訓練として担当地域の事業者と合同訓練を実施した。

(1) 担当地域の原子力防災訓練への専門家および医療派遣チーム参加

令和元年度は、青森県が令和元年11月13日に実施した原子力防災訓練へ専門家および医療派遣チームが参加した。医療派遣チームは、原子力災害拠点病院である八戸市立市民病院にて実施の傷病者受入・搬送訓練に参加し、医療支援活動を行った。また、専門家はゲートコントロールやトリアージエリアの設営・活動に関する助言及び傷病者受入時の放射線管理に関する助言を行った。

同日、日本原子力研究開発機構青森研究開発センターむつ事業所にて実施の避難退域時検査及び簡易除染等訓練には専門家チームが参加し、可搬型ゲートモニター及びGMサーベイにおける車両及び住民検査に関する助言を行った。

専門家及び原子力災害医療派遣チーム参加訓練

担当地域	実施日	名 称	派遣 チーム	専門家
青森県	令和元年 11月13日（水）	令和元年度青森県原子力防災訓練 （傷病者受入・搬送訓練）	5名	1名
青森県	令和元年 11月13日（水）	令和元年度青森県原子力防災訓練 （避難退域検査及び簡易除染訓練）	-	2名

(2) 高度救命救急センター タイベック着脱訓練

実 施：令和元年7月～12月

場 所：高度救命救急センター

受講者：延べ33名

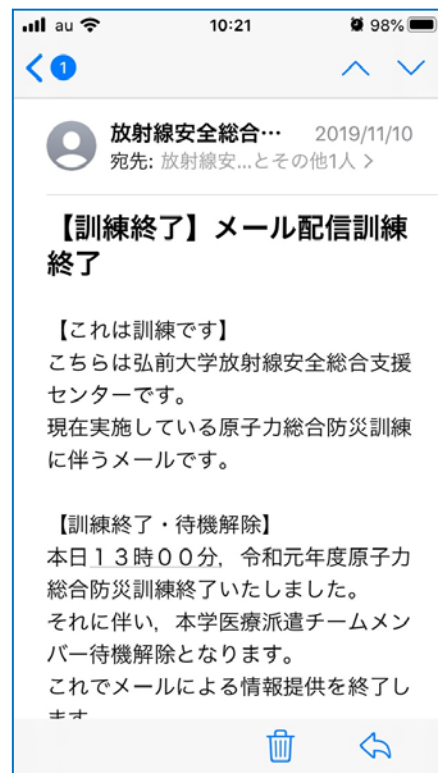
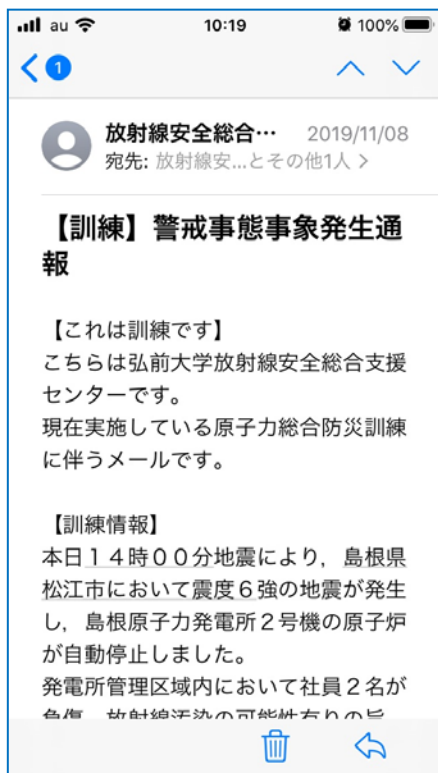
(3) 令和元年度原子力総合防災訓練と連動したメール配信訓練、クロノロ記載訓練

令和元年度原子力総合防災訓練と連動し、原子力災害発生時における本学原子力災害医療派遣チームおよび専門家派遣を想定してメール配信訓練を実施し、訓練メールは全5回配信した。また、事務局にてクロノロ記載訓練も実施した。

実施：令和元年11月8日（金）～令和元年11月10日（日）

場所：放射線安全総合支援センター事務局他

参加者：21名



(4) 担当地域の原子力防災訓練内通信訓練への参加

青森県及び宮城県原子力防災訓練において事務局は通信訓練に参加し、原子力災害医療派遣チーム及び専門家チームの派遣調整訓練、支援センター事務職員による出動支援訓練を実施した。

実 施：令和元年11月12日（火）（宮城県原子力防災訓練）

令和元年11月13日（水）（青森県原子力防災訓練）

場 所：放射線安全総合支援センター事務局

参加者：3名

(5) 衛星電話通信訓練

衛星電話の使用経験が無い事務職員を対象とした衛星電話通信訓練を実施した。本訓練では、衛星電話の種類、設営方法、発信受信方法を学習するとともに、衛星電話端末を使用した実技や長崎大学との発信受信訓練を行った。

実 施：令和元年5月23日（木）～令和元年5月24日（金）

場 所：保健学研究科 F棟2階 大学院講義室2他

参加者：9名



(6) テレビ会議システム通信訓練

本訓練で使用したテレビ会議システムは、汚染傷病者受入時に量子科学技術研究開発機構より診療方針について助言等を受ける目的で設置したものであり、高度救命救急センター特殊処置室と量子科学技術研究開発機構会議室間で接続可能となっている。本訓練では、システムの動作確認と接続テストを行った。

実 施：令和元年7月29日（月）、令和元年12月20日（金）

場 所：高度救命救急センター 地下1階 特殊処置室

参加者：延べ4名

(参考) 日本原燃株式会社との合同訓練

本訓練は、本学と日本原燃株式会社が締結した「放射線物質による汚染を伴う傷病者の診療に関する覚書」に基づき、原子燃料サイクル施設において放射性物質による汚染を伴う傷病者が発生した場合の連絡体制、傷病者引渡し及び医療処置・除染等の手順確認を目的として実施した。

実施：令和元年10月18日（金）

場所：高度救命救急センター 地下1階

参加者：14名

3.5 「原子力災害医療派遣チーム」の派遣調整訓練の実施

自施設における派遣調整訓練として、令和元年度青森県原子力防災訓練において3チーム（本学、青森県立中央病院、仙台医療センター）の派遣調整訓練を実施した。

令和元年度青森県原子力防災訓練における原子力災害医療派遣チーム構成

チーム所属先	派遣先	チーム構成
弘前大学 原子力災害医療・総合支援センター	八戸市立市民病院	医師：1名 看護師：2名 放射線管理員：1名 業務調整員：1名
青森県立中央病院	八戸市立市民病院	医師：1名 看護師：1名 放射線管理員：2名
仙台医療センター	八戸市立市民病院	医師：2名 看護師：1名 放射線管理員：1名 業務調整員：1名

3.6 国及び地域の原子力災害防災訓練等への参加及び助言・指導

担当地域主催の原子力防災訓練等に関する打ち合わせ及び調整会議等に出席し、訓練シナリオ等に対する助言・指導を行った。また、青森県主催の原子力防災訓練に原子力災害医療派遣チームが参加し、宮城県の訓練は汚染傷病者搬送に係る通信訓練に事務局が参加した。令和2年2月13日実施の令和元年度北海道原子力防災訓練（傷病者搬送訓練）には、本学事務局長が参観した。

令和元年11月8日～10日の3日間にわたって行われた島根原子力発電所を対象とした内閣府主催原子力総合防災訓練（東京都、島根県、鳥取県、岡山県、広島県）には、本学原子力災害医療派遣チームメンバーが評価者として参加した。

また事務局は、統合原子力防災ネットワークシステム等を用いた情報伝達訓練及び連動して行われた原子力規制庁主催、支援センター対象の連携訓練に参加した。

< 訓練調整会議等出席状況 >

- 令和元年度原子力災害医療訓練打ち合わせ（宮城県）

開催日：令和元年7月24日（水）

場 所：宮城県庁14階南側 経済商工観光部会議室

出席者：事務局長

- 令和元年度青森県原子力防災訓練全般説明会及び後段訓練に係る調整会議

開催日：令和元年7月31日（水）

場 所：ウェディングプラザアラスカ 4階「ダイヤモンド」

出席者：医師1名、事務職員1名

- 令和元年度青森県原子力防災訓練・前段訓練（図上訓練（一部実動含む））に係る調整会議

開催日：令和元年8月8日（木）

場 所：ウェディングプラザアラスカ 4階「ダイヤモンド」

出席者：医師1名、教員（放射線科学）1名、事務職員1名

- 令和元年度第2回原子力防災訓練関係機関全体会議（宮城県）

開催日：令和元年8月20日（火）

場 所：TKPガーデンシティ仙台勾当台 ホール1

出席者：事務職員1名

- 令和元年度青森県原子力防災訓練（実動訓練）に係る会議

開催日：令和元年9月30日（月）

場 所：ウェディングプラザアラスカ 4階「ダイヤモンド」

出席者：事務局長

- 令和元年度青森県原子力防災訓練に係る宮城県派遣チームとの訓練打合せ

開催日：令和元年10月17日（木）

場 所：仙台医療センター

出席者：事務職員2名

<国または立地道府県等開催訓練参加状況>

- 令和元年度内閣府総合防災訓練
開催日：令和元年11月9日（土）
場 所：鳥取県立中央病院
参加者：医師2名、教員（放射線看護学・看護師）1名、教員（放射線科学・診療放射線技師）1名、事務職員（業務調整員）1名

- 令和元年度北海道原子力防災訓練（被ばく傷病者搬送訓練）
開催日：令和2年2月13日（木）
場 所：北海道大学病院
参加者：事務局長（参観）

- 令和元年度青森県原子力防災訓練（傷病者搬送・受入訓練）
開催日：令和元年11月13日（水）
場 所：八戸市立市民病院
参加者：医師1名、看護師2名、診療放射線技師1名、業務調整員1名、
専門家として教員（放射線科学）1名

- 令和元年度青森県原子力防災訓練（避難退域時検査等訓練）
開催日：令和元年11月13日（水）
場 所：日本原子力研究開発機構青森研究開発センター むつ事業所
参加者：教員（放射線科学）2名

- 令和元年度宮城県原子力防災訓練（汚染傷病者搬送訓練）
開催日：令和元年11月12日（火）
内 容：通信連結訓練
場 所：弘前大学放射線安全総合支援センター事務局
参加者：事務局長、事務職員2名

- 令和元年度拠点運営・連携訓練（プレ訓練）・支援センター個別訓練
実施日：令和元年10月9日（水）～令和元年10月10日（木）
内 容：①FAX、IP電話を用いた連携訓練
②PC-TV会議システムによる連携訓練
③統合原子力防災ネットワーク会議システムを用いた通信訓練
参加者：事務職員4名

- 令和元年度原子力総合防災訓練・支援センター情報伝達訓練
実施日：令和元年11月8日（金）～令和元年11月10日（日）

- 内 容：①FAX、IP電話を用いた連携訓練
②統合原子力防災ネットワーク会議システムを用いた通信訓練
③PC-TV会議システムによる連携訓練
参加者：事務局長、事務職員4名



令和元年10月9日(水)～令和元年10月10日(木)
令和元年度拠点運営・連携訓練(プレ訓練)・支援センター個別訓練



令和元年11月8日(金)～令和元年11月10日(日)
令和元年度原子力総合防災訓練・支援センター情報伝達訓練

第4章 原子力災害医療関係ネットワークの構築

4.1 地域の原子力災害医療関係ネットワークの構築

地域の原子力災害医療関係者同士の人的ネットワークを構築し、情報共有・意見交換等を行うための会合として、令和元年7月12日、青森県弘前市において地域原子力災害医療連携推進協議会（弘前大学担当地区）を開催した。

開催日：令和元年7月12日（金）

場 所：アートホテル弘前シティ 3階 大会議室「エメラルド」

出席者：59名（担当自治体及び原子力災害拠点病院、関係省庁、事業者、支援センター）

<議事概要>

1. 情報提供

- ・弘前大学の被ばく医療に関する取り組み
- ・原子力災害時の医療体制及び安定ヨウ素剤に関する原子力災害対策指針等の改正について
- ・福島県民健康調査甲状腺検査の概要とリスクコミュニケーションについて
- ・原子力災害拠点病院のモデルBCP及び外部評価等に関する調査及び開発

2. 現状と課題

- ・各自治体が実施する原子力防災訓練の現状と課題について
- ・原子力災害拠点病院が実施する研修・訓練の現状と課題について

3. 意見交換

- ・「現状と課題」等に関する意見交換



令和元年度地域原子力災害医療連携推進協議会（弘前大学担当地区）

4.2 全国の原子力災害医療関係ネットワークの構築

全国（立地道府県等）の原子力災害医療関係者の人的ネットワークを構築し、情報交換等のための会合である全国原子力災害医療連携推進協議会に出席した。また本会の運営に協力した。

開催日：令和2年1月28日（火）

場 所：富士ソフトアキバプラザ5F アキバホール

出席者：支援センター長、副センター長2名、教員（放射線科学）1名、事務局長、事務職員3名（うち2名は運営協力）

4.3 原子力災害医療専門家のネットワークの構築

原子力災害医療や線量評価の専門家同士の人的ネットワークの構築や情報交換等のための会合として基幹高度被ばく医療支援センターが開催した連携会議及び専門部会等に参加した。

<専門家ネットワーク構築に向けた会合への参加状況>

- 高度被ばく医療支援センター連携会議準備会議及び第1回会議

開催日：令和元年6月10日（月）

場 所：量子科学技術研究開発機構 東京事務所会議室

出席者：支援センター長、副センター長2名、事務局長、事務職員1名

- 高度被ばく医療支援センター連携会議 医療部会 第1回会議

開催日：令和元年9月20日（金）

場 所：量子科学技術研究開発機構内 研修棟3階 講義室3

出席者：医師2名

- 高度被ばく医療支援センター第1回連携会議線量評価部会(物理学的線量評価分科会及び生物学的線量評価分科会)

開催日：令和元年9月26日（木）

場 所：量子科学技術研究開発機構内 被ばく医療共同研究施設6階会議室

出席者：教員（放射線科学）2名

- 高度被ばく医療支援センター連携会議第2回会議

開催日：令和元年10月7日（月）

場 所：フクラシア丸の内オアゾ 15階 会議室J

出席者：支援センター長、副センター長2名、事務局長、事務職員1名

○原子力災害医療支援センター長会議及び高度被ばく医療支援センター連携会議第3回会議及び中核人材研修振り返り会議

開催予定日：令和2年3月9日（月）

場 所：フクラシア丸の内オアゾ 15階 会議室J

出席者：支援センター長、副センター長2名、医師2名、教員（放射線看護学）1名、教員（放射線科学）2名、事務局長、事務職員1名

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止

4.4 地域ネットワーク構築支援

担当地域における原子力災害医療体制のネットワーク構築支援として、担当地域自治体及び原子力災害拠点病院との意見交換等を実施した。また立地道府県等が主催する会合等に参加し、構築強化につながる助言等を行った。

<担当地域自治体・原子力災害拠点病院等意見交換等状況>

○北海道

実施日：令和2年2月10日（月）

場 所：北海道大学病院

参加者：事務局長

実施日：令和2年2月12日（水）

場 所：札幌医科大学附属病院

参加者：事務局長

実施日：令和2年2月12日（水）

場 所：北海道庁

参加者：事務局長

○青森県

実施日：令和元年6月12日（水）

場 所：青森県庁、八戸市立市民病院

参加者：事務局長、事務職員3名

○宮城県

実施日：令和元年6月7日（金）

場 所：宮城県庁、石巻赤十字病院

参加者：事務局長、事務職員1名

実施日：令和元年8月8日（木）

場 所：東北大学病院

参加者：事務局長、事務職員 2 名

<担当地域ネットワーク会議等参加状況>

- 令和元年度第 1 回宮城地区原子力災害医療ネットワーク会議（専門部会）

実施日：令和元年 10 月 9 日（水）

場 所：宮城県庁 9 階 第 1 会議室

参加者：事務局長

- 原子力災害医療協力機関登録依頼に係る打ち合わせ

実施日：令和元年 12 月 12 日（木）

場 所：つがる総合病院

参加者：教員（放射線科学） 1 名、事務局長

- 令和元年度第 2 回宮城地区原子力災害医療ネットワーク会議（専門部会）

実施日：令和元年 12 月 25 日（水）

場 所：宮城県庁 9 階 第 1 会議室

参加者：教員（放射線科学） 1 名、事務局長

- 令和元年度第 2 回宮城地区原子力災害医療ネットワーク会議（本会議）

実施日：令和 2 年 2 月 5 日（水）

場 所：TKP ガーデンシティ仙台勾当台 ホール 1

参加者：教員（放射線科学） 1 名、事務局長

- 令和元年度青森県原子力災害医療地域連携ネットワーク会議

開催予定日：令和 2 年 3 月 4 日（水）

場 所：ラ・プラス青い森 3 階 プリムラ

出席者：事務局長、事務職員 1 名

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止

- 令和元年度北海道地区原子力災害医療ネットワーク協議会

開催予定日：令和 2 年 3 月 17 日（火）

場 所：北農健保会館

出席者：事務局長

※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止

4.5 原子力災害医療派遣チームのネットワークの構築

担当地区等の原子力災害医療派遣チームのネットワークの構築のため、原子力災害医療派遣チーム専門研修及び担当地域の原子力防災訓練等に医療派遣チームメンバーが参加し、同職種間では各自役割に関する情報交換、チーム間では医療活動を行う上で考えられる課題について意見交換を行った。(前述 第3章3.6と重複)。

また、ネットワーク構築支援の情報収集等を兼ねて、事業所視察及び関連学会へ参加した(前述 第3章3.2と重複)。

<各研修実施の講師構成>

- 令和元年度 原子力災害医療派遣チームに係る専門研修(北海道)
実施日:令和元年7月21日(日)
講師構成:医師3名、看護師4名、放射線管理員4名、業務調整員1名

- 令和元年度 原子力災害医療派遣チームに係る専門研修(青森県)
実施日:令和元年10月20日(日)
講師構成:医師3名、看護師4名、放射線管理員4名、業務調整員1名

- 令和元年度 原子力災害医療派遣チームに係る専門研修(宮城県)
実施日:令和元年9月22日(日)
講師構成:医師3名、看護師4名、放射線管理員2名、業務調整員1名

- 令和元年度青森県原子力防災訓練(傷病者搬送・受入訓練)
開催日:令和元年11月13日(水)
チーム構成:医師1名、看護師2名、放射線管理員1名、業務調整員1名

<ネットワーク構築に係る各種情報収集等>

- 福島第一原子力発電所設備視察
- ※新型コロナウイルス感染拡大防止対策により中止

- 第7回日本放射線事故・災害医学会年次学術集会
- 第2回日本放射線安全管理学会・日本保健物理学会合同大会
- 第25回日本災害医学会学術大会